

科目区分：造形芸術コース・学校教育実践コース（美術教育専修）
授業科目名：絵画Ⅰ
執筆者の所属：美術教育講座
氏名：東 慶太郎

水彩による絵画の合同基礎授業

1. 授業の概要

本授業は、造形芸術コースと学校教育実践コース（美術教育専修）の合同授業である。平面基礎演習Ⅰ、絵画基礎演習等の単色による基礎実技を習得したあとの色彩を用いた最初の実技であり、絵画の総合的造形力や「絵画とはなにか」を考えるのに必要な問題意識を身に付けるための重要な科目と位置づけている。

また、本授業では、教員を目指す美術の学生の多くが中学・高校を志望する実情に配慮し、教員採用試験対策を兼ねて、主に水彩による人物画の制作をおこなっている。

基本的な授業展開は、20分ポーズ×6回を3週、計18ポーズを1クールとする比較的短時間周期である。また、1クールごとに希望する受講生全員の作品講評をおこなって、個々の課題や目標を明確化することに努めた。

本年度の受講者数の内訳は、造形芸術コース19名（4年次・1名、3年次・8名、2年次・10名）美術教育専修2名（3年次・1名、2年次・1名）計21名。

2. 授業評価の方法

比較的少人数の実習授業であり、調査は5項目の質問について自由に観想を述べる記述形式でおこなった。なお、アンケート調査は、記述に責任を持たせるため記名式としている。質問項目と回答は**3. 授業評価結果**に示す。（質問項目5. 授業環境についての報告は省略）

3. 授業評価結果

自由記述で文章量が多いため、授業者の立場から有意義と思われる内容を中心に、可能な範囲で報告する。（誤字等の修正以外はほぼ原文のまま）

1. この授業へのあなた自身の取り組み状況について、評価できる点や反省点などを具体的に記述してください。（積極性・意欲・充実度など）

①水彩絵具での表現をいろいろ積極的にやってみました。反省点は、何かひとつのことに夢中になると別の大切なことを見失っていることがある点

です。

②3時間みっちり絵と向き合うことができず、集中が足りなかったように思う。が、自分がイメージしていた水彩画とは違う作風を描けたという点では充実感があった。

③授業の始めから終わりまで緊張感をもって取り組んだ。遅刻をしてしまったので、その点は反省しています。

④はじめ、この授業の目的としているような水彩の描き方ができなくて難しいと感じていたけれど、いろいろな人の作品の描き方を参考にしながらチャレンジしていったと思います。

⑤水彩は初めてだったので、意欲的に取り組めたと思います。

⑥最初の方は集中して取り組むことができていると思いますが、だんだん時間が経過してくると集中力が途切れ途切れになってしまい、雑になってくるのでそこは反省したいです。

⑦デッサンは苦手意識があるのですが、色を使ってデッサンするというのは、気分的に積極的に制作できていると思います。しかし、着彩の方に趣を置く様になってしまい、構図や立体感等がおろそかになってしまっているなど感じます。

⑧後半に進むにつれて少しモチベーションが低くなってしまい、最後の一枚をあまり集中して描けなかったのが反省点です。ですが、去年受けたときの反省点を活かしながら今回の絵画の授業にのぞむことが出来たので良かったです。

⑨集中して取り組む時は徹底的に集中して画面に向かえるのですが、集中にムラがあるのが反省点です。

⑩無欠席で意欲も高いものの、集中力が切れやすかった。

⑪毎回休まず出席できました。最初の課題で心が折れそうになったけれど、かろうじて立ち上がれました。

⑫15回の授業すべてに出席することができた。技術が及ばず、時間内に納得できる作品を仕上げられることがなかった。

2. この授業であなたが新たに学んだことや習得

したと感ずることを具体的に記述してください。

- ①水彩画のこういう描き方があるというのが実感できたのは、新しい発見でした。難しいと思うところもありましたが、回数を重ねる中でそれっぽくなっていったのではないかと思います。（背景と人物で、一枚で一つの絵」みたいな世界）
- ②背景との関係を意識することを学びました。
- ③水彩絵具ではどういふ感じが表現できるのか色々わかりました。背景、画面全体のことなど、デッサンのときより学ぶことがたくさんありました。
- ④描いているとだんだん見えてくる、できてくるものがあるということです。どうしても、自分の「こうしなければ！」という気持ちが強く、くどいほどにコントラストを意識しすぎてしまい、透けている感じがあると先生にアドバイス頂いた時ははっとさせられました。
- ⑤水彩画といっても色々な塗り方があるんだと思いました。5色で表現できるのはおもしろいと思いました。
- ⑥前回（昨年）の授業では、形にそって色を置いていただけだったのですが、人の身体がどうなっているかや、つながり、塊感を意識できたのかな、と思います。
- ⑦観る力みたいなものが前よりはついたのかなと感ずます。
- ⑧ただ単に色を塗り重ねていくだけではなく、きちんとそれぞれの色の個性（固有色？）を出せるような塗り方を考えていくことを気を付けて進めるようにしました。
- ⑨水彩の新しい使い方を知ることができた。
- ⑩先入観に捉われない描き方（色や形、空間等）
- ⑪着彩について学べた。また、色を塗り重ねていくことの重要性や表現について学ぶことができた。

3. この授業の内容（課題の種類・難易度・時間配分など）について、感想を自由に記述してください。（授業内容の評価できる点、改善のための提案など）

- ①水彩と聞いて想像していたものと違い、考えることが多々あった。
- ②良いと思います。じっくり一枚に向かえるのはとても有難いです。
- ③時間配分もちょうど良く、いい雰囲気の中でできるので良いと思います。
- ④時間も題材もじっくり描けてかつ長すぎずちょうどいいと思います。
- ⑤モデルさんの私服を描けるので様々な質感や素材感を楽しめるのは良いが、初回だけでも T シャツや G パン等、身体の構造が把握しやすい服装が

欲しいと思う。

- ⑥人数が多いので仕方がないが、後ろの方となるとモデルが見辛くなる。
- ⑦課題に対して自由に出来るので良いと思います。
- ⑧2回目の受講だったので、前回言われたことは最低でも改善していくということを目標にして取り組みました。去年は気づかなかったこと、やらなかったことというのを、今回色々挑戦することが出来たので、自分なりにある程度のもので得ることが出来たのではないかと思います。

4. 授業者の指導方法等（指導の回数・時期、講評の方法、説明のわかり易さなど）について、評価できる点、改善を要する点などを自由に記述してください。

- ①自分で学ぶことができていいと思います。言い過ぎないかんじが。
- ②指導回数や時期などはちょうど良いと思います。説明がときどきわからなくなる箇所があります。
- ③放任されている方が楽にできるので、今のままで良いと思います。
- ④講評の方法は今のままで良いけれども、時間が長くなり過ぎて5限がある人は最後まで聞けないことがあったのは勿体なかった。
- ⑤たとえをまじえてご説明、アドバイスくださるので、どうしたらもっとよくなるのか、イメージしやすいです。
- ⑥良かったと思います。改善点は特にありません。

4. まとめ

本授業は、水彩絵具による人物写生の基礎実技であるが、いわゆる水彩画（透明水彩を用いた淡彩あるいは着彩と言われる技法）の描き方を習得する授業ではない。むしろ色彩によるデッサンとでも言うべきものであり、デッサンの授業では余白として具体的には描かなかった背景にも絵具を置くことによって、画面をひとつのものとして感じ取る意識（いわゆる絵画的な感性）を獲得させることを目的としている。しかし絵画を主専攻とする学生だけでなく、デザイン、彫刻などの学生も多く受講しているため、各々が抱える問題意識や目的意識には違いがある。絵画的な能力の向上のみを目的とした専門性の強い指導ではなく、それぞれの専門性にも間接的に良い影響を与え得るような指導を心がけてみたが、効果の程はどうだろうか。

ともあれ、アンケートを見る限り、大多数の受講生には、授業の目的や意義に沿った充実感・達成感を味わってもらえたのではないかと感ずている。